

潜入!! 工事現場

途ちゅアフター

第25回>>> 旧そごう柏店 解体工事



トチュー調査員

長年、駅前のランドマークとして親しまれてきた旧そごう柏店。現在この建物の解体工事が進められているけど、その内部はどうなっているんだろう？



解体現場の全景

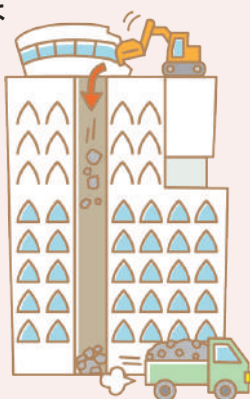
解体工事は令和6年6月に始まり、令和8年12月末までのおよそ2年半をかけて行います。まずは内部の電灯やクロスなどの内装を撤去し、足場を組んで外側に防音パネルを設置。解体は基本的に上の階から順に進められますが、隣のビルとつながっている上空通路は先に切り離し、隣のビルに影響が出ないようにします。

工事の規模はとても大きく、期間中は延べ4万7,000人以上が作業にあたります。特に気を遣っているのが、駅前という立地ならではの制約です。鉄道への影響を最小限に抑えながら、ロータリーやダブルデッキなどの公道を適切に管理しつつ工事を進めています。

トチュー調査員の もっと知りたい!

Q1 屋上の解体で出た「がれき」はどうやって回収するの？

A こぶし大に小さく砕き、かつてエレベーターが設置されていた穴を利用して上から下へ投下します。10トンダンプトラックが1日に何度も往復し、鉄筋や木材などを分別しながら、専用の処分場へと搬出します



えっ、大きいクレーンで重機をつってるの？
すごい!



シンボルでもあった屋上の回転レストランの円盤部分も解体が進んでいます。4台の重機を使って解体していますが、地上からおおよそ50メートルの高さの屋上まで、18トンの重機を一台一台クレーンで持ち上げる様子は、めったに見ることのできないインパクトのある光景です。

工事現場の内部は、外よりも寒く蒸しています。粉じんを抑えるために常に水をまいているため、湿度が高くなり、作業中は気温が低い日でも汗をたくさんかくほどのハードワークが続きます。



屋上の円盤部分

上空通路の解体は隣接するビルとつながっているため、作業に大型機械を使うことができず、なんと全て手作業で行っているそう。外壁やコンクリート部分を少しずつ壊し、最後にむき出しになった鉄骨を切断します。切り離した鉄骨はクレーンで慎重につり下ろされ、安全に回収されていました。



上空通路

工事完了までの道のりは長いですが、安全と周囲への配慮を徹底しながら進めています。解体後の柏駅前の動きにも注目ですね! ご協力いただいた事業者の皆さんありがとうございました。